

花ちゃん、オー君、モンタ博士のかくかくドキドキ相立ててく2

国立市立国立第七小学校

平成26年11月5日 NO.53 (153)



ゼニゴケ

オー君 「うわあー。こりゃ、何なんですか。」

花ちゃん 「キノコみただけど・・・ちがうみたいね。でも、何なんだかとってもかわいいですね。それに、形かたちがユーモラスですね。」

オー君 「そうだね。おもしろい形かたちをしているね。」

花ちゃん 「緑色みどりいろをしているから、植物しょくぶつでしょうね？でも何なんだろう。何なにの仲間なかまかしら。」

モンタ博士 「これはね、ゼニゴケという『コケ植物しょくぶつ』なんだよ。」

オー君 「そうか！コケか。ところで、緑色みどりいろをしている植物しょくぶつというのは、光合成こうごうせいというのをしているんでしょ。」

モンタ博士 「さすが、オー君はむずかしい言葉ことばを知しっているね。光合成こうごうせいというのは、葉緑体ようりょくたいというものをもっていて、自分じぶんで栄養えいようを作りつくりだす生き物いものなんだよ。むずかしい言葉ことばで『独立栄養どくりつえいよう』ともいうんだ。」



花ちゃん 「それじゃ、コケは、キノコやカビとはちがうということですね。」

モンタ博士 「キノコやカビなどは、自分以外の生き物から栄養をもらっているので、
 従属栄養というんだよ。むずかしいお話になって、ごめんね。」

花ちゃん 「・・・???ちょっとむずかしいなあ。」

オー君 「・・・???すっごくむずかしいなあ。」

モンタ博士 「ごめんね。ところで、コケ植物は、キノコやシダ植物とは、大きなちがい
 があるんだけど、知っているかな。」

花ちゃん 「・・・???」

オー君 「・・・???」

モンタ博士 「むずかしかったかな。それじゃ、ふつう植物はどうやってふえるんだっけ。」

花ちゃん 「それは、もちろん、種や球根を植えたりするわ。」

オー君 「それから、枝をさしただけでも、植物は成長したり、ふえたりするよ。」

モンタ博士 「ところが、コケ植物は、種がなくて、そのかわりに胞子というものでふえて
 いくんだよ。この胞子というのは、シダ植物やキノコ、カビなどももっている
 んだよ。それじゃ、下の表にまとめてみるよ。」

	ほうし 胞子でふえる	ようりょくたい 葉緑体がある	みず ようぶん とお みち 水や養分の通り道がある	たね 種でふえる
キノコ・カビ	○	×	×	×
コケ植物	○	○	×	×
シダ植物	○	○	○	×
種子植物	○	○	○	○

※水や養分の通り道のことを維管束いい、シダ植物以上を維管束植物といい、キノコ・
 コケに較べて進化している。